

年末年始、イスラエル（4X）とヨルダン（JY）を行ったり来たりする旅行社の催行するツアーに参加しました。「何でそんな物騒なところへ行くのですか」と複数の人達から言われました。だけど私は全く気になりません。ほんとうに。平和ボケという言葉は私のような人間のことを指すのでしょうか、いやいやそこまでいかない世間知らずのアホという分類に入るのでしょうか。私の心の中では、現在内戦下にある国に行くのじゃあるまいし、外務省の危険情報にも渡航禁止の警報も出ていないし、そこそこの旅行会社がツアーを催行するのだからという軽い気持ちで旅行が始まりました。結果的にはあらゆる人気スポットがことのほかすいていてゆっくり観光することが出来ました。矢張り常識ある人々は好んで訪れる地域ではないのでしょう。気候も砂漠に近い乾燥地帯のため大雨もなく、後述の死海では十分に浮遊体験が出来るくらいですから日本よりはかなり暖かいといえるのでしよう。

ただ、複雑な世界情勢下にあるイスラエルを如実に感じたのは入管手続きでした。どちらの国でも入国に際して普通に行われるパスポートへの入国の押印の問題です。即ちイスラエル入国の押印のあるパスポートでは至近の国々イラン、レバノン、イエメン、スーダン等ですら入国ができなくなるのです。老いぼれの私でもイランくらいはまだ行く可能性がなきにしもあらずです。大声で「NO STUMP PLEASE」というと、相手も心得たものでSTUMPを大きく振り上げて頬つたに押すぞというジェスチャーをしてニマリ、押印の代わりに名刺大の入国カードをくれました。それ以外には特別のハブニングもなくあっさり入国することができました。

毎度のことながら成田まわりの離日、昼飯時に大阪を出て、あたりが暗くなるころ再び大阪上空を西に向かいました。韓国（38度線のすぐ南側、北京、ヒマラヤ山脈の北側を通過、アラビア海を横切るといって西向きのコースを取ります。参加者は9名、男性5名女性4名、そして女性の添乗員でした。いずれも一人参加で、女性は若いのにしっかりしてるねという感じ、最近はそのようなが特に多くなったように思えるのは私だけでしょうか。

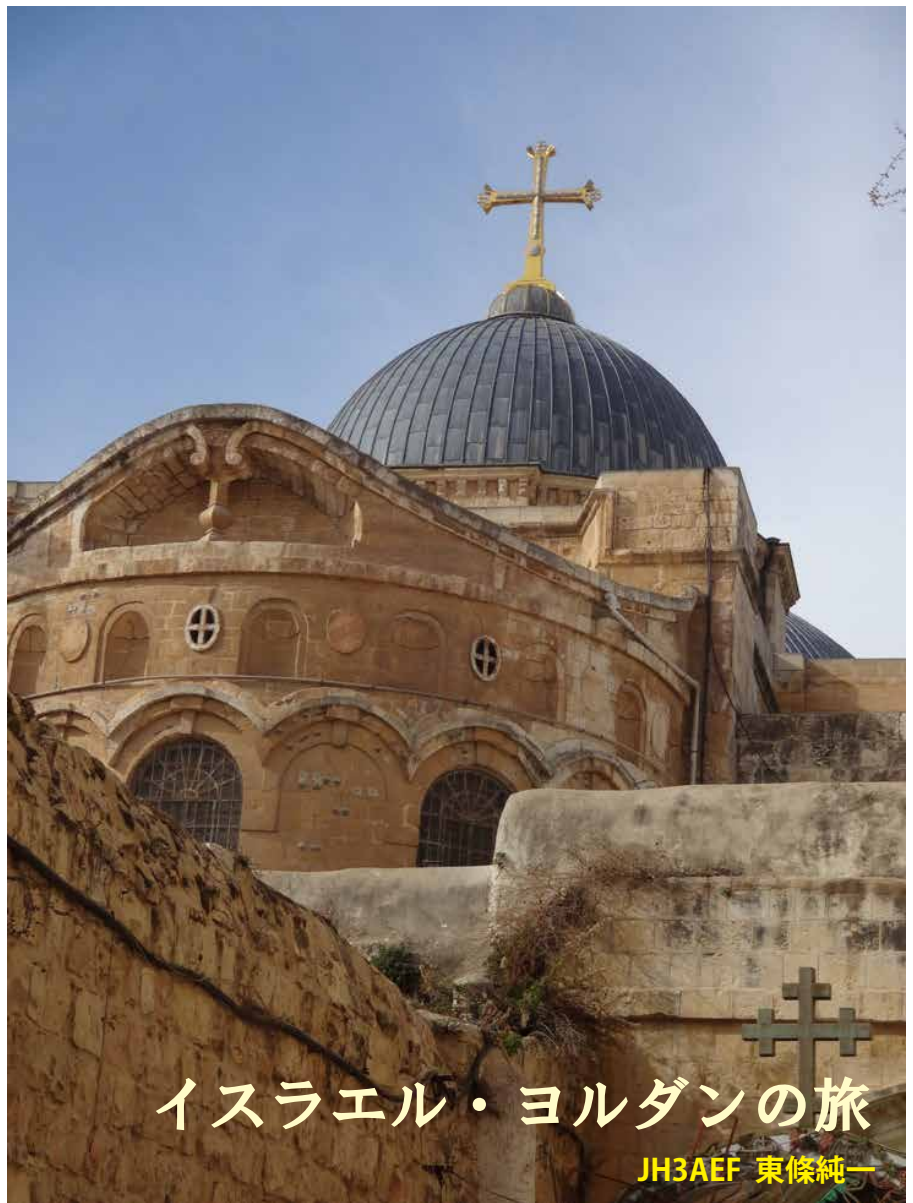
ツアーの内容にもよるのですが、所定の時間、場所でeチケットをもらえばあとは自由にチェックインして到着地の集合場所で集合する。目的地の入管をすませれば現地のガイドも観光バスも用意されているのですから、短い期間に要所を効率的に見て回るにはこれほど便利な旅行はありません。旅行社も心得たもので、みだりに土産物屋には寄りませんをモットーに掲げているのも、日本人の旅行スタイルがそれなりに洗練されてきたからでしょう。

さてさて、このようにどうでも良いことばかりをのたまっていますと、お前いったい何しに行ってきたんや？と言われそうなのですが、実はその先、一向に筆が進まないのです。なんととなれば自分の無知、不勉強を今回ほど痛切に感じたことがなかったからです。

即ちイスラエル、なかでもエルサレムはユダヤ教、キリスト教、イスラム教が聖都と定める地、共通の聖地なのだそう。そしてそれらの宗教の聖典とするものも、



エルサレムは高層ビルの立ち並ぶ近代都市
スマートな路面電車も走り道路の整備も行き届いている。



イスラエル・ヨルダンの旅

JH3AEF 東條純一

エルサレム市の中心部の一角にある聖墳墓教会と呼ばれるキリスト教の大本山とされる教会

100%ではないにしても共通の旧約聖書なのだとこのことを今回ようやく確認した次第です。そのような基本の基本から入力していかなければならない私ですから困りました。この街、この国の旅行記は、単にどこどこに行きました、どのような古い建物がありました、どここの景色が素晴らしかったです、、、などではすまされない、その奥を紀元前1200余年の昔から流れる長い長いストーリーとそれに伴う教示があるということ、いやおうなしに教えられることになったからです。



なかでも敬虔なユダヤ教徒男子は黒い帽子をかぶり、丈長の黒いコートを着て、戒律を厳しく守る生活をしているため、我々の考える日常とはかけ離れた生活をしており、一般市民との間に軋轢が生じる場合がある。ユダヤ教徒の1/3が敬虔なユダヤ教徒であるとの説明をうけた。

とずく物語がある」までは当たり前ですが、「それに関する深い教示がある」ということでした。私の理解では史実とはほぼ旧約聖書に書かれていることということになりましょうか。宗教に関することを私ごときが浅薄な知識で語ることも自体、不浄なことなのでしょうが、1947年、死海の北西、クムラン地方で発見された死海写本といわれる古文書の実物をイスラエル博物館でこの目で確認したことにより、私が現在まで理解してきた「聖書に書かれていることはただただ宗教にかかわる古い昔のお話」では済まされないという大改革が、私自身の頭の中で起ることになる旅になりました。

この死海写本が発見されたクムラン地方をも訪れました。砂と岩山と深く刻まれた乾燥した谷が錯綜する寂しい場所でした。そして博物館では死海写本の実物にも対面しました。即ち死海写本とは死海の近くで発見された旧約聖書などの写して紀元前2世紀に書き写されたもの、へ

(次ページに続く)



■ Fig. 2-1 ~ 2-4 そのエルサレム市の中心部の一角に、16世紀オスマン帝国により建設された城壁に囲まれた旧市街があり、その中にユダヤ、ムスリム、キリスト各宗教の聖地が共存する。イエスキリストが隣にされたゴルゴダの丘もここあり、その地に聖墳墓教会 (Fig.2-1) と呼ばれるキリスト教の大本山とされる教会がある。エルサレムのシンボルとなっている黄金のドーム (Fig.2-2) はイスラームの聖地である。そして、かつてユダヤ教の神殿があったが AD70 年にローマ軍により破壊され、残った壁が、ユダヤ人が再興とメシアの來臨を祈る嘆きの壁 (Fig.2-3) と呼ばれるユダヤ教の聖地なのです。一般人もこの壁の前ではキッパ (Fig.2-4) と呼ばれる丸い皿状の帽子をつけなければならない。そして、この旧市街に住む人々も宗教により厳格に住み分けがされている。

■ ** 上の写真の左から、Fig.2-2 黄金ドーム、Fig.2-3 嘆きの壁、Fig.2-4 キッパを頭に筆者 (Fig.2-1 は前頁のタイトルの写真) **

ブライ語聖書 (=旧約聖書)、イザヤ書、外典、注釈書など聖書関連の文書からなっており、キリストの生誕以前、BC130 年ごろ、当事すでに読まれ使われていたこれら旧約聖書等が紛争などで散逸、喪失するのを防ぐ目的で、まとめ、写しとどめられた文書群なのだそうです。そしてその発見は 20 世紀最大の考古学的発見といわれています。そうなるも我々が何となく聞いたことのあるあの名前、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーゼ、ヨシュア、サムエル、ダビデ、ソロモンその他諸々はイエスキリストが活動する以前の人物になるわけで、イエスキリストの生誕よりもはるか昔から、すでに旧約聖書上に存在していたこれらの聖書人物は、まんざら架空の人物というばかりでもなかったのでは??? と大いに感じ入るところがありました。

1947 年の 20 世紀最大の発見、、、と云われても高校の世界史の授業では聞かなかった?

白ブタと呼ばれていた色白でグラマーで我々男子生徒には一寸魅力的だった世界史担当女史先生の容貌ははっきり脳裏に焼き付いているのですが、、、

ところで一寸趣を変えて死海の話といたしましょう。もちろん湖なのですが塩水の湖、それもよほど塩分濃度が高く 30% といわれています。



決して背中をついているわけではありません。ごらんの通り四肢を水面に突き出して容易に浮遊できます。ただ塩分濃度が高いため、顔をつけて塩水が目に入るとは厳禁です。この地域は地球の大地溝帯の一部に当たり、地球の大変動期に海だった部分が陥没し、周りは隆起し、海水を貯めたまま湖になったのだそうです。湖水面の海拔が約マイナス 400m という奇妙な位置にありながら、上流にはガリラヤ湖 (水面は海拔マイナス 210m) という死海より小さな湖がありここは淡水湖です。北東部ゴラン高原などの水を集め、ガリラヤ湖を流れ下った水はヨルダン川となり死海に流れ込むのです。海拔マイナス 400m にある塩湖からは塩水は流れ下らないのでしょうか。理屈からは流れくれないはずですね。現地でもガイドに質問すべきだったことを、今この文章を書いていて気がきました。ヨルダン川そして死海の中央が国境となり東側がヨルダン、西側がイスラエルとなります。もちろんこの死海、キリストの時代から塩水湖としてありました。ガリラヤ湖やヨルダン川には淡水魚が住んでいますが、死海に流れ込む手前で皆 U ターンして上流に戻

るのだそうです。その様子が 3 世紀のモザイク画に面白おかしく表現されているのには苦笑を禁じませんでした。



ヨルダン川のイスラエル側にヨルダン川西岸地区と呼ばれるパレスチナ自治区 (パレスチナ人と主張する人々の住む地区) があり、パレスチナ人のみが生活していることですが、その地域は相当の広範囲に及び、日本の四国ほどのイスラエル全土の 1/5 程度に及ぶのではないのでしょうか。彼らはイスラエルの国の中に住みながらパレスチナ国家の独立を主張しているのですから、ひとつ間違えば紛争、暴動になってしまうという非常に複雑な事情を如実に感じざるをえませんでした。この自治区の境界線は地図上にはありますが、街中ではフェンスがあるわけでもなく、道路は何の境界も無いのかのごとく当たり前にまっすぐ伸びており、我々もその境界の存在すら気づくこともなく行き来しました。自治区の中を歩いてみましたが、スーパーもあり学校もあり役所もありで、何の不安定な状況もなくごく普通の生活が営まれ、人々は親しく挨拶もしてくれました。我々が見た範囲では農耕牧畜が生業のように感じました。地中海沿岸にはガザ地区というパレスチナ自治区もありますが、こちらでは



紛争が絶えないように聞き及びました。また、イスラエルの中心都市エルサレムやベツレヘム (イエスキリストが誕生したとされる街) にもこの自治区の境界線は及ぶのですが、さすがこの地域では地図上にも境界線は引かれていませんでした。

列強の国々からそう遠く離れない地域で日常を送らなければならない小国の悲哀といえましょうか、歴史的に見ればダントツに古く紀元前 1200-1300 年もの遠い昔からイスラエルを名乗り、ユダヤを名乗り、パレスチナを名乗りこの地で生活をしてきたにもかかわらず、後から後から勃興してきた他地域の民族の傲慢、野望、御都合により、理不尽にもその尊厳をないがしろにされてきた歴史を振り返ったとき、今を境にどうか平和に問題が解決されるようにと願わずには居られません。日本の四国ほどしかない狭い地域に暮らす人々ではありませんが、知的能力に秀でた国民性はハイテク産業をはじめ世界のトップ企業の指導者も多く排出していると聞くにつけ、英知を結集し平和で安心な生活が始まることを心から祈りたい気持ちになりました。

4X で目にとまった ANT は HEX がひとつ、JY では目に付きませんでした。





アンテナは多くのハムにとって最も頭の痛い事柄かもしれません。少しでも効率の良いアンテナを望んでも設置場所からくる制約、風の心配、近所や家族の目等々、いろいろなことで制限されてしまいます。また、40mバンドが100kHz帯域から200kHzに拡大された際、「どのようなアンテナで全体をカバーするか」という問題に直面した方もあったことでしょう。その意味では80mバンドを運用しようとする問題がもっと深刻になります。何しろ3.5～3.8MHzと300kHzをカバーしなければならないのですから。こんな低い周波数での300kHzはとても広い帯域です。周波数の8%ほどもある帯域のため、21MHzに置き換えると6倍の1.8MHz、21.0～22.8MHzというとても広い帯域になるのです。こんなことから、80m全体を一つのアンテナでカバーしようとするのがいかに困難なことか想像できるでしょう。

こんな80mでもなんとか運用できるようにと、これまでクリエートデザインのCD-78Jrを何年も使ってきました。このアンテナは3.5MHzのダイポールに必要な長さ40mを11.7mにまで短縮したアンテナです。本来必要な長さのたった27%まで短縮されたアンテナですが、その割に

は(!)うまく動作していたと思います。エレメントに取り付けられたローディングコイルと先端についた容量エレメントを利用して3.8MHzにまず同調させています。そして、3.5MHzのCWや拡張前の国内QSOのSSB周波数にも対応できるように、給電部にコイルとリレーを設けて、リモートスイッチで5つの周波数に対応させるという構造です。しかし、短縮率が大きいので、5つのポイントにおいて使用可能なVSWRの周波数範囲はとても狭くなってしまいます。ですから80mバンド全体をカバーしようとするれば、無線機側にチューナーがどうしても不可欠なのです。大きい短縮率ですから仕方ないことなのでしょうが…。

この広い80m全体を最良の状態で見られるアンテナがイタリアで販売されていたのですが、諸事情で生産中止になると聞き、慌てて購入することにしました。Ultrabeam社製のUB-80というアンテナです。ぎりぎり間に合いUB-80の最終生産品を入手することができました。UB-80の全長は20mで短縮率は50%。エレメントの先端から1/4くらいのところに入っているローディングコイルを利用して短縮しています。このUB-80の

イルは類を見ない構造なのです。運用周波数に合わせて最適のインダクタンスとなるようにリモート制御可能なモーターを利用してコイルの長さを調整するのです。この方法で3.5～3.8MHz全域を1kHzステップで最良のVSWRを保ちながら連続カバーするよう設計されています。このコイルの調整は無線機の運用周波数に追従するよう自動的にコンピュータ制御され、300kHzもある80mバンドのどの周波数で運用するにもVSWRは1.2以下となるのです。短縮率の改善、コイル内側が格段に長くなったこと、給電部にはコイルがないこと等で、アンテナの放射効率はCD-78Jrと比べて格段に改善されるはず、と購入を決断しました。

JA3USAにはタワーは1本しかありません。200kgもある40～6m用の大型ビームが既にタワーの上にあるのですが、UB-80をその大型アンテナの上に取り付けるしかありません。互いのアンテナへの影響を極力小さくするため、UB-80を大型ビームから大きく離れたところですが、80mアンテナ用マストの取付金具による制限から、この両アンテナの間隔を2m余りしかとることができません。両アンテナが互いに影響することを心配していましたが、実際にUB-80を上げてみるとコントローラーの初期設定値と設定周波数の差は全くと言っていいほどでしかたらず、ホッとすることができました。両アンテナの放射器が並行にならないようUB-80を90度ずらして取り付けたことや、大型アンテナと言っても80mの波長より短い周波数だということがその理由でしょうか。

UB-80の取り付けが完了した日の夜に3.8MHzのSSBで試験運用を行いました。W6やPYと良好にQSOできましたから、うまく動作しているのでしょう。実際に3.5～3.8MHzのあらゆる周波数でVSWRを確認しましたが、どの周波数でも1.2以下となっていました。

de JA3USA

私が再々 A5 に出かけるそのわけは？

大英自然史博物館に5頭の古びた蝶の標本があるそうです。残念ながら自分の目で見ただけではありません。Bhutanitis ludlowi (和名:ブータンシボリアゲハ)の名前が付けられています。ludlowiは最初この蝶を採集した英探検家F.Ludlowの名前から付けられたものです。古びているのもそのはず、採取されたのは1933年、それ以来採集の記録がありません。採取場所にはブータンの東の端の地方の名前が記されています。1933年など私の生まれる以前の大昔、そもそも当時の地方がどのような勢力下にあったのか想像もつきません。

現在でも国土の西端に近い首都チンブーからこの地に入るには、危険いっぱい、の山道を車で4日は走らな

ければならない辺境の地です。いや、もったかかるともよくもまあそのような辺境の地に、その当時と驚かされるのは私一人ではないでしょう。もっとも蝶類の研究者の間では、永らくの間、その生息に興味もたれ続けてきたことに違いはありません。ところが2009年、ブータンの森林保護官により、同じ地方でそれらしき個体の発見が報道され、一気に注目が集まりました。

しかし、今やブータンは世界屈指の環境立国です。ニュースとともに世界中の研究者、写真家、収集家が殺到しましたが、環境維持のため全ての行動が禁じられたなか、2011年、運よくブータン農林省、日本蝶類学会、HNKに特別の研究、記録などの活動が許可され、その結果、このブータンシボリアゲハの存在が確認されたばかりか、

産卵、食草、生息地などの詳細が明らかになってきました。また、この国にはこのブータンシボリアゲハ以外にも、単にシボリアゲハと命名された近似種が同国西部で生息することが新たに確認されました。比較的首都に近く道路状況の良い地域であり、彼女に巡り合える機会はまだざらでもなかならうとホノボノとした気になるのは私ばかりではないでしょう。

世界的には、シボリアゲハと呼ばれる属種にはブータン以外の地域で、ウンナンシボリアゲハ、シナシボリアゲハと呼ばれ、名前のごとくそれぞれの地域で生息が確認されているものがあります。私が毎春、葛城山で出会うギフチョウもそれらとは親戚関係にあるので

はないかと感じるくらいよく似た雰囲気です。いずれ遺伝子解析などでその関連性が明らかになるのでありましょう。商売気はいつでも同じ、昨年、写真のようなビールが発売されたとき、早速入手、へっこめずに持ち帰るのに苦労しました。

de JH3AEF



シボリアゲハ



ギフチョウ



Newsletter

<http://j13zag.net/html/nl.html>

会報を自由にダウンロードすることができます

Monthly meeting

at International House Osaka
the 2nd Friday of each month

Rollcall

Every Saturday 00:00UTC @21.370MHz